

公共施設のトイレ等の環境整備に関する

政策提言案作成委員会 県外調査概要

日 時 令和3年12月17日（金）午後1時30分～2時30分

場 所 としま区民センター 4階 403会議室

調査者

委員長 飯島 修

副委員長 猪股 尚彦

委員 望月 勝 河西 敏郎 白壁 賢一 渡辺 淳也

水岸 富美男 山田 七穂 清水 喜美男 流石 恭史

杉原 清仁

欠席者

委員 卯月 政人

対応者

豊島区政策経営部「わたしらしく、暮らせるまち。」推進室長

豊島区政策経営部「わたしらしく、暮らせるまち。」推進室係長

豊島区文化商工部文化デザイン課長

豊島区文化商工部文化デザイン課係長

調査事項 1 としまパブリックトイレプロジェクトについて

調査事項 2 としま区民センターのトイレ整備、維持管理について

○ 質問・意見交換について

問) 豊島区のトイレがアートに行き着くまでにワークショップも含めていろいろな意見があったと思うが、何にどう取り組んで、どのくらい時間をかけてやったのか、集約までの過程について教えてほしい。

答) まず、アートトイレそのものについては、豊島区が消滅可能性都市

と呼ばれるかなり前から、文化によるまちづくりを推進してきたという背景がある。これは、高野豊島区長が就任時から一貫して文化によるまちづくりを一つの大きな軸として掲げていることに起因するが、特に区長就任時は本当に厳しい財政危機を迎えていて、いろいろなものをスリム化していく中で、どうすれば区民に街の未来を感じてもらえるか、夢を持ってもらえるかという状況だった。また、豊島区は手塚治虫先生をはじめとする漫画の聖地「トキワ荘」を有する地域で、伝統の文化と漫画を始めとする新しい文化が融合する地域でもある。そういった中で、トイレの一部をアートとして捉えることについての庁内合意は比較的図りやすかった。また、パブリックトイレプロジェクト自体が、一つの部署が発案して推進したものではなく、政策経営部内にプロジェクトチームを組んで、そこで出たアイデアを具現化したものだった。その後の地元住民との合意形成にかかる時間は24カ所それぞれにストーリーがあるが、基本的には3年間の改修計画で公園を改修する時期が決まっている中で、最初の段階で区民の意見を聞いて、建てかえ本体のスケジュールが進んでいく中で、デザインは何カ月前までに決めなければならない、外装は何カ月前までに決めなければならないという予定に合わせて、随時、住民の声を聞くという手法をとった。住民の合意形成がとれてからトイレを改修するとなると時間がかかるので、大もとのトイレの建てかえスケジュールの中に住民の声を聞く、アーティストさんに依頼する、実際に施行するという段取りを入れ込む形で行った。

問) 狙ったけれどもそのとおりにならなかった内容と、狙わなかったけれどもうまくいった内容があるかと思うが、それぞれについて教えてほしい。

答) 今回のアートトイレには3タイプあるが、外に書いてあるタイプと、中をあけると書いてあるタイプがあって、どちらがいいということではなく、それぞれに特徴がある。外に書いてあるタイプは、一部の近隣住民から、デザインが自分の家の側を向いていると気持ちが悪くないという声は出たことがある。そういった声もあることはわかっているのですが、特に住宅に隣接している公園のトイレは、外は通常のトイレで中をラッピングする内壁ラッピングにしているが、一方で、そのタイプにしたら、地元の方から、あんなにすてきなものを何で外にしてくれなかったのか、外から見えるようにしてほしいという意見

もありました。よかったことは、メンテナンスの部分で全国の自治体の公園トイレもいろいろな課題を抱えているかと思うが、割れ窓理論ではないが、実際に汚いトイレは、さらに落書きやいたずらをされることがあるが、アートトイレについては落書きの報告が今のところない。当初、きれいに書かれたものに対して落書きをされることを非常に心配していたが、今のところ落書きが1件もなく、これは最初から狙ったわけではないが、結果的にとてもよい効果があったことだった。また、豊島区は待機児童ゼロを達成するために、8割が認定のない保育園で、遊び場として地域の公園は非常に大事になるが、そういった側面でも保育園児が安心して公園のトイレを利用できることは豊島区にとって大きな課題であった。その点がアートトイレに取り組んだことで、まず、子供が安心して利用できるようになり、それに付随して保育士や保護者が家まで急いで連れて帰る必要がなくなった。また、お母さん自身もトイレを使うことを考えると、このような点がよかったことである。

問) 今後、このプロジェクトの続きとなる取り組みを考えているのか伺いたい。

答) パブリックトイレプロジェクトのマップをつくったが、更新されていないという課題がある。3年以上経過したので、もう一度コンビニ各社への協力を依頼しなければならないと考えている。さらに、ここ数年間で、豊島区内に新たな民間施設ができた。また、豊島区は各企業との協定にも熱心に取り組んで、パブリックトイレプロジェクトの後に締結しているので、そういった企業にも協力を依頼して、さらに充実したパブリックトイレのマップにしていきたいと考えている。

問) 豊島区民センターは花王さんと協定を締結されているということだが、協定締結に至った経緯と協定の内容、また、豊島区として維持管理にかかる労力と費用をどう考えているのか教えてほしい。

答) 経緯としては、としま区民センターのパブリックトイレ、パパママスポットは公民連携による運営を目指そうと最初から決めていたので、豊島区民センターでこういうトイレをつくるので協力してほしいと幾つかの業者さんに打診をして、清掃用品会社、トイレ製造会社、製紙会社など、さまざまな聞き取りを行った結果、花王株式会社さん

から、ぜひやらせてくださいという話があった。おもてなしトイレということで実績もあって、清掃用品や紙おむつの提供が受けられるなど、幅広い年齢層に対しての業務形態、ノウハウがあったということで、花王さんを選ばせていただいた。

経費については、西口の勤労者福祉サービスセンターにもトイレがあって、指定管理という形でとしま未来文化財団に清掃サービスを委託しているが、全く費用が異なる。いわゆる面積に対して一般的に妥当であろう金額よりは高い金額となっている。これは議会にも説明させていただき、承認を得ているので、細かい数字を知りたいということでしたら出せるのでおっしゃってください。

答) 補足として、花王さんに対してお金は出していません。あくまでも協定の中でやっている。

問) すばらしい取り組みなので、このプロジェクトに対する区民の声を聞きたいのと、プロジェクトに対する区長のリーダーシップが伝わったが、さりとして議会があって、トイレの問題はそんなに必要ではないという声もあると思うが、豊島区はこれをクリアしてきた。その辺をどうやって進めたのか、参考に伺いたい。

答) 区民センターについては再開発計画の中で新庁舎ができて、旧庁舎を建てかえることが決まっていたので、その建てかえの中で、豊島区のPRポイントとして「日本一きれいな公衆トイレ」を打ち出してやっていたので、当然、議会の各会派へまわらせていただいて、こういうトイレをつくりたいと説明はさせていただいたが大きな反対はなかった。区民の皆さんからも、繁華街で立ちしょんなどのトイレ問題が発生している中で、きれいなトイレに対しての反対はなかった。

答) トイレプロジェクトも同様で、85カ所のトイレを建てかえることが、女性にやさしいまちづくりという大きな一つの位置付けの中にあっただけで、そこに対する議会の反対はなかった。区民の反応は、区長が一生懸命いろいろなところで説明したこともあるが、やり過ぎといった声はなく、逆に自分の街でもやってほしいという声の方が多い。

答) おそらくプロジェクトの展開の仕方に成功したと思う。女性と子供にやさしいまちづくりの一環というところが理解が得られやすかった

と思う。

以上



※としま区民センター403会議室にて概要説明を受け、質疑を行った後、豊島区民センター内のトイレの視察を行った。その後、THE TOKYO TOILETプロジェクトの一つである渋谷区はるのおがわコミュニティーパークトイレの視察を行った。